

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192800015		
法人名	医療法人悠山会		
事業所名	グループホームファミリア下呂		
所在地	岐阜県下呂市森2273番地		
自己評価作成日	平成23年8月17日	評価結果市町村受理日	平成24年10月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2192800015&SCD=320&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年9月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『価値ある一日、その人にあった場面や時間を大切に』という考えのもと、利用者がそれぞれの力を発揮してもらい、生き生きとした生活が送れるように支援しています。御利用者に食事作りを手伝ってもらう機会を作ったり、裁縫などを行ってもらったり、絵がき教室を定期的開催したり、その他でもその人が出来ることを見付けて継続してもらえるように努めています。また御家族と職員の信頼関係を深めるために、面会時に御家族とお話をする機会を持ったり、行事への参加をお願いして交流を持つようにしています。選ばれる施設を目指し、個々の努力と職員全体のチームワークで職務を遂行するように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今までの自宅での暮らしを、ホームでもそのまま継続できないかと、全職員で考えながらサービスを検討している。そのために、利用者本人の暮らしぶりを把握し、意向を確認する努力をしている。「自宅の居室が、ホームの居室に変わっただけ」という思いを持って暮らしてもらえるように、全職員が一丸となって取り組んでいる。天然温泉の湯を入浴に利用し、広い浴室から見える外の景色が素晴らしく、入浴を楽しみにしている利用者が多い。利用者一人ひとりの人生が全うできるように、職員間で緊密に連携し、日々、生き生きと過ごせるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ファミリア下呂の理念である、「今までと変わらない安らかで心和む暮らしをしていただく」事を、個々の職員が念頭において職務にあたっている。	理念は、事業所が目指す具体的でわかりやすいものとなっている。ミーティングで職員全体で話し合い、意識の統一を図っている。自宅で生活していたような暮らしができるように、地域に根差し、「今までと変わらない安らかな暮らし」を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃などへの参加や、地元の祭りでは開催地域の方々に来ていただいて交流を図っている。事業所の行事にはボランティアの方に参加していただいている。	ホームは高台に建てられ、外出が困難な利用者もいるため、地域の祭りや演芸ボランティアに多く訪問してもらっている。地域の清掃活動に職員が参加することで地域とホームの交流の橋渡しをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	社協等の研修の受け入れをしたり、ボランティアの方の受け入れを通じ、認知症の方への理解を深めていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、推進会議を開催し、行事の様子を見ていただいたり参加して頂いて、ご家族・区長・民生委員・市役所の方々の意見を伺い、サービスに活かせるように努力している。老人福祉及び認知症への理解の為の勉強会も取り入れ相互理解も高めている。	2ヶ月に1回、会議を開催している。参加者の家族からは、移動販売車の導入や、市の広報や福祉たよりを市民である利用者にも届くようにとの意見が出ている。会議での提案等は、実現に向け反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日常的に、社会福祉課・高齢福祉課・地域包括等、行政と連携し、連絡を取り合うように努めている。	利用者の高額介護保険料の減免措置等について、市に相談し、対応してもらっている。日頃より、利用者の生活状況を報告することで、連携や協力ができる体制づくりを整えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間の日々の話し合いにより身体拘束をしないよう又拘束による弊害を認識し、安全な介護を心掛けている。入り口の施錠をせず自由に行動して頂き見守りしている。リスクマネジメントの意識高揚にも取り組んでいる。	日々の暮らしの中での気づきを基に学習会を行っている。身体拘束の具体的な行為について学び、拘束のないケアを行っている。玄関は、施錠せず、職員の見守りや工夫で安全に暮らせるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議・ミーティングを通じ、常に虐待が無いように注意をはかり、防止を徹底している。また、言葉での虐待にも注意し、防止を図っている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に制度が深く浸透している状態では無いが制度を有効に利用していけるよう、勉強会を開いている。また成年後見人制度の申請にあたり、社会福祉士、司法書士との打合せには立ち会いし制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約の際に、契約内容について、御本人・御家族に説明し、納得・理解をいただいている。また、契約内容変更の際には、文書と口頭にて、その都度、御本人・御家族に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当者が、御利用者・御家族の要望を伺い、又、定期的に通信誌を出し、意見を返していただくようになっている。また推進会議に参加していただき、要望などを伺うようになっている。全家族に通信ハガキを送付し、意見を伺ってある。	利用者からは、日々の暮らしの中で意見を聞き、家族からは、運営推進会議の場や、定期的な通信発行時に、意見や要望を返信してもらっている。家族の要望により、移動販売車が実施されることとなった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議(1回/月)、ミーティング(随時)を開き、職員より意見・問題点を聴取し、その内容について検討している。	職員会議やミーティングで、職員の意見や問題点を話し合っている。食事の時間については、職員がケア用のエプロンを外すことなど検討し、実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいをもって職務に当たれるように、勤務の態度などを考慮し、評価している。職員が有給休暇を都合に合わせて取れるようシフトを柔軟に組んでいる。意欲向上の為職員の研修参加についても推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に勉強会を設け、職員個々がスキルアップを目指している。又、施設外の研修に参加出来るように勧めている。法人としてケアスクールを開校し、無資格の方への対応も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設との交流は行っていないに近い状態である。個人的な施設視察は奨励している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御利用者の状況を事前に伺い、安らかである生活ができるように配慮している。管理者及びケアマネが初期の段階で、対応するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御本人の家庭での状況を伺い、家族の不安や要望・意見などについて、話しを聞く機会を設けている。施設見学の積極的な受け入れを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始の際に、御本人・御家族から聴き取りをして、生活上で困っていることや、不安事を確認し、当事業所のサービスで適切に支援ができるように努めている。ケアマネが適切な対応をするように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室担当者が訪室したり、利用者と一緒に行事に参加して、一方的な介護にならず、対等な立場での関係での生活ができるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	推進会議や家族の来所時に意見を伺い、サービスに反映出来るように努め、対等な関係を築くように努めている。来所出来ない方には通信誌にて御利用者の近況報告を行っている。カンファレンス・職員会議等で意識高揚に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人が気軽に来ていただけるように、来所しやすい施設の雰囲気作りを心がけている。定期的に外出支援を行っている。個人的な処遇にも配慮している。	気軽に外出できない利用者もいるため、ホームに訪問してもらうことで関係の継続が図れる状況である。来訪した友人知人には、繰り返し訪問してもらえるよう、心配りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方達が安全な環境で自由に行動できるように配慮しており、利用者同士が自然な形で関わりあって頂くようにしている。また、利用者に行事などに参加して頂き孤立しないように図っている。良好な人間関係が保てるように職員の介在を常に考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所されたとき等、サマリーなどの情報提供を行い、御本人の介護に役立つように配慮している。また家族から相談などがあつたときには、その都度対応している。御家族に電話をさしあげたり面会に行くということも心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の要望に答えられるように、居室担当者が、希望を伺い、困難な場合も本人本位の思いを把握し、ミーティングにより、検討し対応している。ケアマネが介在し、配慮している。	居室担当者が決められており、日々の様子を見て、利用者の意向や希望が把握できるよう努めている。把握が困難な場合は家族から情報を得て、その人らしい暮らしを支えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期のアセスメントにて、御本人・御家族様からの情報や生活歴を基に、少しでもその環境に近づけるように努めている。また職員間でカンファレンスで検討するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネ・居室担当が訪室・面談等し、状態等の把握にも努めている。 バイタルチェックや食事摂取量を毎日チェックし、身体状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネがカンファレンス実施計画を立て、順次実施している。カンファレンスを実施し、検討した上で介護計画を作成している。担当者・各スタッフが毎日、各御利用者のモニタリングを実施している。	3ヶ月に1回の全体会議で意見を出し合い、本人・家族の希望を取り入れて、介護計画を作成している。毎日モニタリングを実施し、課題があれば、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護日誌、特記録、経過記録に記入し、職員間の『報告・連絡・相談(ほうれんそう)』の徹底に努めている。介護計画にも反映させるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・御家族の訴えや、意見を参考にし、カンファレンスなどを開き、検討し、職員間で意見交換し対応に努めている。法人としては小規模多機能・高齢者向けアパート及び実費宿泊サービス等を営んでいて、かなり柔軟な対応をとるようにしている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に来所いただき、行事のだしものに参加いただき、楽しく盛り上げて頂いたり、近くの絵はがきの先生に来て頂き、定期的に絵はがき教室を開催して頂いたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、往診を行っている。かかりつけ医の受診は家族の方に行っていたが、行けない場合や、緊急時には、看護師が対応するなどしている。かかりつけ医との関わりは入所後も維持していただくようにしている。	利用者や家族の希望を確認し、全員が協力医をかかりつけ医に変更している。月に2回、協力医の往診を受けている。緊急時には、地域の医療機関と連携し、適切な医療につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の体調の変化、などの気づきを看護師に報告・相談し、適切な看護や受診が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	サマリーでの情報提供や、面談などを行い、早期に退院できるように医療機関等との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアについて、御本人と御家族が望む生活が送れるように御家族・御本人と話し合いをしている。必要に応じて医療機関との迅速な連携ができるように、配慮している。また、協力医院に往診にて対応していただいている。また意向調査票を作成している。	利用開始時に、終末期ケアについての意向を確認している。重度化に伴い、その都度意向の確認をしている。終末期は、利用者や家族、医師、職員と連携し、安心して最期を迎えられるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の指導のもと、救命講習を定期的実施している。 急変時に適切な判断ができるように意向調査票も確認するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災・避難訓練をしている。地元自治会に加入し、災害時の協力をお願いしている。また、夜間帯の火災等について想定して訓練を行った。 災害時の対応手順について、マニュアル化をしている。	夜間を想定した避難訓練や防災訓練を実施している。地域の自治会に加入し、災害時の協力を依頼している。	昨年度より、地域での協力体制を整える取り組みが課題となっている。今後も協力体制の確立に向けた取り組みを継続し、今年度は実現できることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議やミーティングにより、利用者に対する声の掛け方・待遇に対し勉強会を行い、日々の介護の中でも人格を大切に接し方になっているか職員間で確認している。	定期的に事業所内で「スキルアップ研修会」を開催している。研修会では、利用者に対する言葉かけや待遇などを学び、一人ひとりの尊厳と権利を守るように対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネ・居室担当者が訪室・面談をし、支援するようにしている。利用者と一緒にお茶を飲んだり、生活リハビリを行ったり、その中の会話の中から希望を伺ったりする場面作りにも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の日常の生活のペースや体調に合わせた支援をし、どのように過ごしたいか希望を伺い、生活していただいている。ミーティング・職員会議等で職員の都合による処遇は、極力排除するよう検討している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの用意は、出来る限り利用者を選んでいただくように対応している。乱れも常に整え、ひげそりや整髪も毎日していただけるように介助・支援している。御家族にもその旨を伝えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	随時、嗜好調査を行って、それをもとに献立を検討している。手作りおやつの日には、一緒に作っていただいたりと楽しんで食事ができるように工夫している。	嗜好調査を行い、一人ひとりの好みや苦手なものをふまえた食事作りに努めている。法人のシステムとして、利用者と職員と一緒に調理できる環境にないため、手作りおやつなどで、一緒に作って食べる楽しみを味わっている。	システムと一緒に調理することができなくても、準備や片付けなどの過程で参加できるような取り組みに期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取が確認できるようにチェック表を利用している。利用者様の様子に応じて、きざみ・ペースト・又はトロミ付けをして工夫している。自己摂取できるように自助具の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に全員が口腔ケアを行えるように対応している。認知症の方は拒否される方が多いが、声掛けや、対応の工夫などで、ケアできるようにしている。		

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄を確認しパターンを把握し、誘導・介助をさせていただくようにしている。	排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。パターンに応じて個別に誘導し、トイレでの排泄につなげている。また、行きたい時には何時でもトイレに行くことができるように、生活リズムに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師と相談により、便秘予防の為、食事内容や運動や服薬・座薬の使用も含め、便秘への対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	温泉を利用して、ゆっくり入浴を楽しんでいただけるように対応している。希望する方には、毎日入浴、ユニットバスの使用もしている。現在は入浴者が多いため、それぞれ時間帯を決めて入浴していただいている。	利用者の希望に応じて毎日でも入浴でき、浴槽には温泉の湯を利用している。利用者は、窓越しの眼下に広がる景色を眺めながら、ゆっくり入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理に注意し、快適に安眠していただくようにしている。また、体調不調時には、速やかに休息を取っていただけるよう、対応を行っている。本人の希望があれば、休息できるように居室への誘導もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会を実施し、スタッフ全員の意識高揚に努めている。誤薬防止のため、服薬チェックし、口腔投薬を心掛け、服薬終了確認まで、見守りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った役割を考え、洗濯物・おしぼりたたみ、朝食の準備、おやつ作り、季節料理のお手伝い等に参加していただいている。外出支援なども個々の要望に合わせ、その都度実施している。御本人の趣味も奨励している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人希望による買い物外出や美容院、花見、祭、ドライブ等、計画的な支援を行っている。月間行事を立て、散歩等の日時を組み込んでいる。	ホームは高台にあり、周辺は坂道ばかりで、利用者が散歩を希望しないことが多いことから、週間予定に散歩を組み入れている。家族と協力して、外出する機会が増えるよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームファミリア下呂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月2回、移動販売車が来所し、買い物を楽しんでもらい、また自分でお金を払っていただけるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用していただいている。事務所にてはがきや切手の販売したり、また郵便BOXを設け、自由に手紙を出していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内を清潔さを保ち、安全に過ごしていただくように心掛けている。利用者側に立った空間作りを心掛けている。	ホームの壁や廊下には、季節感あふれる利用者の作品や行事の写真が飾られている。広い空間で転倒しないよう、さりげなく置かれた家具が手すり代わりとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時など、御利用者の座られる位置などにも気をつけている。ソファにもゆったり座って休んでもらえるように心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人・御家族の希望を最優先として、自宅にあった家具等の使用をしてもらうなど、居心地よく過ごしていただくように工夫している。	一人ひとりの居室には、使い慣れた家具や趣味の作品などが置かれ、その人の暮らしぶりが感じられる。馴染みの物の配置を工夫し、居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車イスの方には、居室やトイレにスロープを設けている。廊下やトイレ内部に手すりを設け、安全に移動していただけるように対応している。		